昭和41年7月22日　第三種郵便物認可　　あきつ　　平成30年7月15日発行（年4回　1・4・7・10月発行）第618号

あきつ

2018年7月15日発行
第　618号
発　行 / 社会福祉法人　天童会 飯野順子

「はしか」の話

副園長　大石　勉

「麻疹はかかって当たり前」、そして青少年期によくある様々なトラブルなどは「はしかのようなもの」と以前はほとんどの子供が罹ったので、巷間こう言い慣わされてきました。

今どきの若い方々には死語となりつつある“はしか（麻疹）”は5日から7日間続く高熱と全身の赤黒い発疹を特徴とする、年配の方々にはそれほど珍しくはないウイルス感染症です。

今年3月、タイで麻疹に感染した1人の外国人観光客が沖縄県に持ち込んだ麻疹により沖縄県では99人の麻疹患者が発生しました。この麻疹に沖縄で感染した他県の観光客は引き続き、それぞれ20人規模の流行を地元の愛知県や福岡県で引き起こしました。また昨年3月にはインドネシアで麻疹に感染して帰国した関東在住者が、帰国直後に運転免許取得のため山形県内の自動車教習所に通い、その教習所と宿泊したホテルを主体として60人の麻疹患者を発生させるという沖縄と同様の事例が起きました。麻疹は感染力が極めて強いので（インフルエンザの5～6倍）、僅か1人の発端者でこれほどまでの流行を引き起こすことになります。まさに青天の霹靂です。遠い他国から麻疹を含む様々な流行感染症がグローバリゼーションの進展によって突然身近に侵入してくる時代になってきています。

かつて日本では毎年数十万人が麻疹に罹患していましたが、1978年度からは麻疹ワクチン1回定期接種、2006年度からは2回定期接種が開始され、近年2001年28．6万人の流行以来大規模な流行は減少してきました。さらに、2010年5月を最後にそれ以降日本土着の麻疹ウイルスの新たな発症の報告はなく、2015年3月には世界保健機関（WHO）により日本は永年の悲願であった“麻疹排除状態”と認定されました。

この数年間は年200～300人の海外から持ち込まれた散発症例のみで、今年や昨年ほどの大規模な輸入麻疹による流行はありませんでした。

今回は幸いにも予防接種の効果や適切な情報発信に基づく関係諸団体の防疫努力等々により、沖縄では6月11日に流行の終息が宣言されました。同時に、今回の流行では沖縄におけるいくつかの麻疹伝播の特徴が明らかになりました。患者の70％で麻疹ワクチンは未接種または接種歴不明でした。患者の72％は20代から40代で、30代が31％と最多でした。40代は定期ワクチン接種開始前の世代で免疫がない可能性があり、また30代は定期接種1回のみの世代で免疫力が経年劣化していたことが考えられます。

今回は修飾麻疹という今まであまり知られていなかった言葉も世間の耳目を集めました。1回のワクチン接種のみで長時間が経過し、免疫が低下した時に麻疹に罹ると典型的な麻疹になることもありますが、発熱のみで発疹がないあるいは発疹のみで発熱がない、つまり軽症ではあるものの典型的な症状を呈さないので診断が困難となる麻疹のことです。

さて、一般的には麻疹はほとんどが大過なく治癒しますが、中耳炎（7％）や肺炎（6％）、脳炎（0．1％）などを併発し重篤化することもあります。また麻疹による失明は発達途上国では今なお重大な後遺症となっています。「恋は“はしか”のようなもの、年取ってから罹ると余計始末が悪い」と言う喩えにもあるように、成人麻疹は五代将軍徳川綱吉の例を引くまでもなく重症化し、時に致命的です。2回のワクチン接種でも稀には麻疹に罹ることがありますが概ね軽症で、他人に感染する（うつす）ことはないことが解っています。今回の事例からも2回のワクチン接種の有効性が推測されていますが、同時に95％以上の2回のワクチン接種率を達成してそれを維持することが集団防疫の観点からも重要と考えられます。

以上、最近の話題としての麻疹を例に感染症について書かせていただきました。細菌感染症はもとより様々なウイルス感染症、たとえば所謂“かぜウイルス”であっても、これらに罹ることDI）の制限や生活の質（QOL）の低下に直結します。

特に園生は“障害の種類や程度に加えて集団生活から来る総合的な免疫能力の低下がある”ことを考慮して防疫に努め、療育をおこなうことが大切と考えます。

永年表彰

看護科主任　森田由紀

日本重症心身障害福祉協会が主催する平成30年度の永年勤続者表彰式が兵庫県神戸市で開催され、出席させていただきました。

秋津療育園からは、計11名のスタッフが表彰を受けております。

ここまで来れたのは、周りの皆様の支えがあったからこそと、今更ながら実感しております。

しかし、勤続10年はまだ道半ばです。この表彰を励みとして今後も感謝の気持ちを忘れずに「信頼される安全な医療・看護・療育」が提供できるように一層の努力を続けることを誓い、謝辞にかえさせていただきます。

ハープコンサート

6月13日ハープ演奏のボランティア　濱口玲子さんをお迎えし秋津玄関ロビーでコンサートを開きました。

アイルランド民謡「サリーガーデン」「庭の千草」「星に願いを」「いつも何度でも」「花は咲く」　20分という短い時間ではありましたが、職員や利用者さんにお集まりいただき普段、生で聞くことのできない美しいハープの音色に酔いしれることができました。

秋津全体が、ハープの優しい音色に包まれた1日となりました

社会福祉法人　天童会

重症心身障害児（者）施設	秋津療育園	〒189-0002 東村山市青葉町 3-31-1	Tel.042-391-1377	Fax.042-392-5422
秋津療育園	通園センター	〒189-0002 東村山市青葉町 3-31-1	Tel.042-306-1336	Fax.042-306-0138
秋津療育園	相談支援センター	〒189-0002 東村山市青葉町 3-31-1	Tel.042-391-1345	Fax.042-391-1358
東村山市認可保育園	こひつじ園	〒189-0002 東村山市青葉町 3-9-33	Tel.042-394-9628	Fax.042-394-9628

うんどうかい

以前は園全体で行っていた大運動会も様々な環境の変化で様式を変え、現在は各病棟毎に行っています。今年で59回目を迎えた運動会、今年も楽しく活気あふれた種目が各病棟で繰り広げられました。さて「金メダルは誰の頭上に・・・」

4病棟のコメント

今年の４棟の
運動会は「４リンピック」
と題して盛り上げていました
競技は「障害物競走」「砲丸投げ」
理事長推奨の「ボッチャ」の
３種目を選びました
みんな一生懸命
頑張っていました

ちゃぶ台から始まった秋津の運動会

（運動会の写真ではないと思います
当時が連想できる1枚）

資料によると昭和36年10月1日「第1回運動会」とあります。また他の記録にはこんな文献がありました。丸いちゃぶ台がふたつ、その上にかごが一つずつ置いてあった。かろうじて動ける子供たちが紅白の鉢巻を締めてもらって、その回りに座ったり寝そべっていたりした。指導員の掛け声で、子供たちはお手玉をそのかごの中へ投げ入れようとした。目の前にある籠なのに、お手玉はなかなか入らなかった。精一杯からだを動かそうとする子供たちの姿は、胸を締め付けられるほど可愛かった。保母さんたちの明るい声にかこまれ、陽光のもと、緑の芝生一杯に繰り広げられる今日の運動会からは想像もできない。それは世界一小さな運動会だった。（重症児と共に―秋津療育園15年の記録―より）

目の前に情景が浮かんできますね。 60年の歴史の中には様々な形の運動会があったようです。さて来年の運動会はどのようになるでしょうか？ 今から楽しみです。

今日（こんにち）の日中支援について

療育部長　大瀧ひとみ

当園は、今年で創立60周年を迎えます。創設当初の入所者は、お子さんで重い障害はありますが、日中活動や行事、日常生活は保育園同様であり、医療も今日のような重症度はなく、発達支援を中心とした療育が行われていました。その後、増改築や増床を重ね、平成5年に全面改築を行ないました。その当時は入所者の平均年齢が50歳という現状を見据えておりませんでしたし、重症児者の人権尊重やノーマライゼーション概念の社会背景が現在ほどではありませんでした。

現在は、入所者の人権尊重はもちろんのこと、ライフステージに沿う個別性重視の療育が求められています。日中活動では、発達支援として、就学児と卒後のグループに分かれ、リハスタッフも協働しての活動、音楽を専門とする職員を中心としたサウンドヒーリング、アロマセラピストを中心としたアロマセラピーなど入所者の緊張軽減、癒し、快感などを求めて従来の活動に加え実施しています。施設全体での季節行事も棟ごとの実施によって、入所者の障害や医療度に合わせ、ゆったりとした活動となっています。

このように入所者の人権を尊重し、個別性、ライフステージなどを考慮した日中活動や行事が出来るようになりました。

今後は職員の資格の専門性を重視した療育、高齢化社会に必要な医療と介護の一体化、重症児者を取り巻く社会背景など様々な観点から日中支援活動の在り方を検討し実施に繋げたいと思います。

pepper
ペッパー君

自立支援センター「むく」さんからペッパー君が来てくれています。
滞在期間は2年間。ご来園の際はぜひお話してみてください
正面玄関にてお待ちしています

リハビリテーション室　リハだより

5月23日、東京都立光明学園教員であり、言語聴覚士の森岡典子先生にお越しいただき、「みんながやる気になるテクノロジー」と題して、ご講演頂きました。

先生は100円グッズを用いて作ったおもちゃや絵カードのような、ローテクノロジーも交え、お子さんの支援を行なっていらっしゃるそうです。

大事なのは、その物を「使えるようになる」ことではなく、そのものを通して“何を感じるか”。気持ちを沢山引き出して、相手に伝えられるようになること。「一人ひとりが自己表現をすることで、外の世界との接点を持ち、人生を楽しんでもらうことが、コミュニケーションの目的」とのことばが印象的でした。

支援する私たちがこのことを理解し、コミュニケーション支援を行っていく必要があると感じました。

日尼経済連携協定（日尼EPA）事業報告

療育手　ユディ・アントニウス

日本で働くのが私の夢です。秋津療育園で働けるのは嬉しいけど、ちょっと心配なこともありました。それは、秋津には母国の先輩がいないこと。私が日本語にまだ慣れない中、障害者福祉の仕事の経験もないこと。日本人が私のことをどう思うのか、とても気になりました。

職員皆とても優しくて、私にとって分かりやすい言葉で色々なことを教えてくれました。だから私の心配もだんだん無くなりました。仕事のことを忘れてしまっても、もう一度分かりやすい言葉で優しく教えてくれました。

秋津の利用者さんは障害者の方がたくさんいます。初めて利用者さんを見たとき私はうまく働けるかなと不安に思いました。でも職員のおかげでだんだん仕事も楽しくなり、慣れてきました。ここで働けるのはとても嬉しいです。

滞在期間は3年ですが、3年だけではなく10年以上働きたいと思っています。なので、介護福祉士の国家試験を取得するために頑張ります。

秋津アーカイブ
秋津の古い写真と文献

古い写真や文献の中から、もう一度見ておきたい、読んでおきたいものを掲載します。

愛に生く（愛に生きる）

秋津療育園　元庶務課長　篠原貞雄

「幸せの像」は秋津療育園のシンボルである。私たちは、この像を見るたびに園の依って立つ意義の原点を考えたい。この像の中には理事長が園を創立し、自分が一生かけて追及しているものを指し示していることを思う。

私たちは、このシンボルを見るごとに、創立者の意をうのみにし、真似るということではなく、象徴され、意図する処の究極のものを自分も又目標として進み、より一層深くへ入っていくという心構えを持ちたい。

その究極のものとは何かと言えば、像の台石に刻まれている聖句「せん方つくれども希望を失わず、せめられるども亡びず。」である。その原点は、徹底的な愛を下し、理事長に真の生命を与えて生かし、園を創り育ててくださった方の「真実の愛」が、脈々として生命となって流れ、導き、支えていてくださるからである。

真に児童を愛し、秋津を愛するとき、自分のやっている仕事が一番いいものだと信ずるとき、自分に与えられた社会人としての責任と愛の故に自分で満足し得る、恥ずかしくない仕事に生きなければならない。

（昭和46年発行　あきつ66号より）

＊現在と表現方法が異なる部分がありますが、原文のまま掲載しました

ご寄付　この度は、御寄付をたまわりまして誠にありがとうございます。皆様方の温かい御支援と御協力に、あらためて心より厚く御礼申し上げます。三光教会様、鈴木さよ子様、八百忠様、朝霞准看護学校、一般社団法人東京文具工業連盟様、こすもすの会宮腰加寿恵様、狭山准看護学校様、女子聖学院様、和田真様、1棟M・H御家族様、榎本造園土木様、東京清涼飲料水工業組合様、中村公則様、渡辺恵子様、坂本トモ子様、目白教会日曜学校様、ひかり幼稚舎若草会様　園生のために活かしていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます

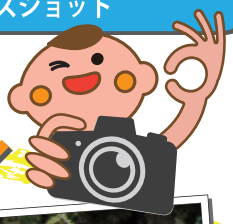
編集後記

先日来の豪雨被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます　さて先日の朝の通勤時のことです。園近くの曙橋を渡りかけたとき、前から来た中学生が落ちていた、たばこの空箱をひょいと拾い、持っていたコンビニ袋に入れました。しばらく後ろ姿を追っていると別の中学生もコンビニ袋をぶら提げて足元を見ながら歩いています。どうやら学校全体で通学中のゴミ拾いをしているようでした。良い取り組みですね。自分も見習わなくては・・まだまだ暑い日が続きます。熱中症にはご注意を。　池田（雄）

あきつ　第618号
E-mail：jimukyoku@tendoukai.net
HP：http://www.tendoukai.jp
発行人／飯野順子
発　行／年4回1・4・7・10月発行

NICE

1病棟の人気者S君
航空公園に展示の飛行機の
コックピットでの
ナイスショット



Nice Shot!
ナイスショット秋津

NICE

2病棟のSさんと
職員のFさん
全生園をお散歩中にみえた
固い絆がナイスショット

NICE

豊島園にて3病棟のKさん
と職員Aさん　水しぶきが
あがったところを
ナイスショット

NICE

4病棟Mさんはイオンモール
散策中　職員Kさんとの
ナイスショット！
良いものみつけたかな？

とりくみ サウンドヒーリングSH

SHは音叉によるトリートメント、及びオイルトリートメントによりホメオスタシス（恒常性）の維持を図る事を目的としています。

活動内容は、バイタルチェックを行い、足浴もしくはホットパックで体を温めている間、スタッフ間で音叉トリートメントを行い、身体を整えます。その後、園生に合わせたアロマオイルを使用し、トリートメントを行っています。

現在は10名のスタッフで月2回、棟毎に行っています。昨年度は延べ103名の施術を行いました。

普段緊張している園生がリラックスしたり、うつ伏せで丸くなって寝る園生が仰向けでまっすぐになって寝たりと、特別な空間と時間を味わってもらえていると感じています。

祝 古希・還暦

1名の園生さんが古希を、1名の園生さんが還暦を迎えられました。おめでとうございます！

古希を迎えられたFさんの病棟では他の科の職員も駆けつけてくれて、一緒にお祝いをしました。映像を皆で観ながら、Fさんの生まれた年の出来事や、秋津療育園に入所してからの様子をふり返りました。

Fさんの大好きな、美空ひばりさんの『川の流れのように』を職員全員で歌いました。Fさんはうっすらと涙を浮かべている様でした。

栄養管理室からケーキのプレゼントも届き、とても華やかなお祝いの場となりました。

正面玄関に 秋津美術館 を開設

正面玄関入口に園生さんの作品を展示するコーナーを設けました。絵や切り絵などたくさんの作品を飾って、来園する皆様に観ていただきたいと思っております。なお作品は半年ごとに入れ替えたいと思っておりますのでお見逃しの無きように・・・

通園センター便り

通園センター運動会

今年度も紅白に分かれて、日頃の機能訓練や運動活動の成果を競い合いました。

ご家族の声援を受けて、いつも以上の力を発揮する方、緊張して力を発揮できなかった方、皆の真剣な表情が素敵でした。

花壇 植え替えました

本年度から玄関前花壇のお花を「サカタテクノサービス」さんが飾ってくれています。年3回の植え替えで季節の花が見られるようになりました。ここには「皇太子・美智子妃両殿下行啓記念」のクスノキ、「秩父宮妃殿下ご来園」のコウヤマキも植樹されていますのでご来園の際はぜひご覧ください。